和歌山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	知的財産権	
科目基礎情報						
科目番号	0058		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	知能機械工学科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	独占禁止法ガイドブック・必要に応じて資料を配布					
担当教員	後藤 多栄子					
到達目標						
知的財産権の基礎的法体系の修得と事例をまなぶ。特許アイデア創出や出願明細書作成に必要な基本技術を学ぶ。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	知財の基礎を理解して説明することができる。		知財の基礎をおおむね理解して説明することができる。		知財の基礎の理解ができない。また説明ができない。	
評価項目2	知財の事例を理解して説明することができる。		知財の事例をおおむね理解して説明することができる。		知財の事例を理解できないし、説明できない。	
評価項目3	知財のアイデアを考えだし、具現化できる。		知財のアイデアをそれなりに考えて、おおむね具現化できる。		知財のアイデアを考えだせないし、具現化できない。	
評価項目4	特許庁への出願明細書作成ができる。		特許庁への出願明細書作成がおおむねできる。		特許庁への出願明細書作成ができない。	
学科の到達目標項目との関係						
JABEE A						
教育方法等						
概要	知財全般の基礎知識を習得することを目的に、独占禁止法を中心に知的財産権のさまざまな事例をととして、知的財産権の企業戦略を学ぶ。知財全般の知識を深め、特許出願に必要な実践的知識や技術を指導する。					
授業の進め方・方法	独占禁止法を中心に知的財産権のさまざまな事例をととして、知的財産権の企業戦略を学ぶ。知財全般の知識を深め、特許出願に必要な実践的知識や技術を指導する。時には外部講師(弁理士など)によるセミナー(アイデア創出・PBL)をととして学生が学ぶ機会がある。					
注意点	COC科目である。2・3回にわたり、和歌山に関する知的財産の具体例を使って知財を学ぶ。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概要説明 市場と競争	市場における競争の役割を理解できる。		
		2週	不正行為と企業倫理	企業の倫理について理解できる。		
		3週	不正競争防止法	不正競争防止法が規制する行為を分類別に理解できる。		
		4週	経済憲法としての独占禁止法	競争と独占禁止法とかがわが理解できる。		
		5週	独禁法が規制する3条前段の私的独占	私的独占の事例を理解できる。		
		6週	3条後段のカルテルや談合	3条後段のカルテルや談合の事例を理解できる。		
		7週	独禁法が規制する19条の不公正な取引方法	独禁法が規制する19条の不公正な取引方法の事例を理解できる。		
		8週	独禁法の適用除外となっている知的財産に関する21条	独禁法の適用除外となっている知的財産に関する21条を理解できる。		
	4thQ	9週	商標法	商標法体系を理解できる。		
		10週	意匠法	意匠法体系を理解できる。		
		11週	特許法	特許法基礎を理解できる。		
		12週	発明アイデアの創出方法	発明アイデアの創出方法を使用してアイデアを創出できる。		
		13週	パテント検索そして明細書の書き方	パテント検索そして明細書の書ける。		
		14週	著作権	著作権体系を理解できる。		
		15週	試験返却・解説			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	3	
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。	3	
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。	3	
				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	3	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	3	
				環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	

分野横断的 能力				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	3	
				過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。	3	
				知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	3	
				知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	3	
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	3	
				技術者を指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。	3	
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	3	
				技術者を指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	3	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3				
	他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3				
	他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3				
	日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3				
	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3				
	円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3				
	他者の意見を聞き合意形成することができる。	3				
	合意形成のために会話を成立させることができる。	3				
	グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3				
書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3					
収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3					
収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3					
情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3					
情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3					
目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3					
あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3					
複数の情報を整理・構造化できる。	3					
特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3					
課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3					
グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3					
どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3					
適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3					
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3					
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3					
周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3					
自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	3					
目標の実現に向けて計画ができる。	3					
目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3					
日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3					
社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3					
チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3					
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	態度・志向性			

			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	
			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
			企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
			企業には社会的責任があることを認識している。	3	
			企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
			企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
			社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	
			技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
			技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合

	試験	課題ほか	合計
総合評価割合	50	50	100
評価	50	50	100